



HANDA CUP 第55回全日本プロボウリング選手権

12月10~12日/新狭山グランドボウル

山本勲 苦しみを越えて掴んだ16勝目



▲15勝で足踏みが続いていたが、3年ぶりに16勝目を手繰り寄せた

予選(24G)を、過去全日本選手権6勝の川添奨太が5109の1位、4勝の山本勲が5092の2位で通過。準決勝(12G)でも他の選手を置き去りにして二強のマッチレースが続いた。「前半の6Gを終わったあたりで、最後の12G目を勝った方がトップシードなのかなという雰囲気があった」と山本、その予感は的中する。山本は9ピンのリードで迎えた最終G、237を打って川添を振り切った。そして今年デビューの安里秀策が3位、全日本では初の決勝進出という森本健太までの4名が決勝ステップラダーに進めた。

安里と森本の4位決定戦は、2フレからターキーで先行した安里だが、5フレは④⑥⑦のスプリット、7フレはワッシャーをカバーできずオープン。「ライン選択を間違った」と悔やんだ安里を、森本が8フレからの



▲ドリームマッチに続く連勝はなかったが「来季につながる終わり方」と川添

ターキーなどで224:189と退けた。

3位決定戦は、森本が2、4フレのスプリットで前半に2つ



▲3位の森本「初めて全日本の決勝に残れて、やっている方向性が間違っていないことを確認できた」



▲最後の1投で優勝を決め、渾身のガッツポーズ

のオープンを作れば、川添は5フレ④⑥スプリット、8フレは①②⑧⑩をカバーできず、貯金がなくなった。ピン差リードで迎えた森本の10フレは「しっかり投げ切れなかった」と7本カウント。きっちりダブルを持ってきた川添が186:177で優勝決定戦に進んだ。

前戦のJPBAプレイヤーズドリームマッチ準決勝で川添に敗れ、そのリベンジに燃える山本がターキーでスタートすれば、川添も2フレからターキーと譲らない。

「自分の持っている技術を全部出さないと、ポケットにすらいかないぐらい難しいレーン」と振り返った川添は、5フレの③⑩、6フレの②④⑩スプリットのピンチをナイスカバーで必死に食らいつく。しかし8フレは⑦を痛恨のカバーミス。俄然優位に立った山本の9フレは「決めにいったわけではなかったけど、結果を欲しがった

男子のシーズン最終戦『第55回全日本プロボウリング選手権大会』は、出場有資格者96名が12月10日から3日間、埼玉・新狭山グランドボウルを会場に熱い火花を散らした。2021年はシーズントライアルを含め4度の2位など勝ち切れない試合が続いていた山本勲(44期・アメリカンボウリングサービス)が、5度目の全日本制覇で、2018年のジャパンオープン以来3年ぶりの通算16勝目と伸ばした。(共催: (公社)日本プロボウリング協会/一般社団法人国際スポーツ振興協会)

自分の気持ちがああいう結果になったのかな」と、ポケットを残す6本カウント。しかもこれをカバーミスで、勝負の行方は10フレに持ち込まれた。

山本の1投目は⑦タップ。川添も⑧を残す9本カウントで、山本が1ピンリード。互いにスベアをマークのあと、「去年から2年にわたるこのシーズンを、いいものにするか、ダメなものにするかのすごく大事な一投」で会心のストライクを決めた山本の、歓喜の雄叫びが何度も会場内にこだました。

山本はこの優勝で、永野すばるを逆転して2020-2021シーズンのポイントランキングトップとなり、アベレージと合わせ2冠にも輝いた。



▲川添(左)の祝福を受ける山本。左右の絶対王者復権を印象付ける大会となった

優勝・山本勲のコメント

川添クンとの準決勝でのシーソーゲームは、ああしんどいなと思いつつも、例え最後2G連敗することになっても、トップシードで残ることが最高の結果への近道と思っていた。だから12G目は、優勝決定戦と同じくらい気が入った。

決勝のレーンは、どのボールを投げてでも投球次第で白黒がはっきり出るレーン。だからレーン選択も、相手のことを考えてスタートレーンを選ぶような余裕はなくて、まずは自分のアジャスト技術を総動員して、全力で1球1球を投げようと思った。最後の1投は、硬くなりそうなところで、今年何度も2位になった悔しい経験が生かせたと思う。これが30代最後の試合。



やっぱり20代のころとは違って、優勝の間隔が開けば開くほど勝つ難しさを感じるし、その分勝てたときの喜びも大きい。確かサウススポーでは、龍隆行さん(2017年没)の17勝が最多だと思う。まずはそれを塗り替えたい。それができたら永久シードの目標も見えてくると思う。しかし焦らずに、1個1個かみしめながら積み重ねていきたい。

優勝ボール: キネティック・イーエックス(トラック)

●決勝ステップラダー

山本 勲	202	優勝
川添 奨太	186	山本 勲
安里 秀策	189	
森本 健太	177	
	224	

●優勝決定戦

山本 勲	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	30	59	79	98	118	138	157	173	182	202
川添 奨太	9	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	50	78	98	115	134	153	162	181	201



▲ルーキーイヤーで決勝進出の安里プロの世界に飛び込んで、より深くボウリングのことを知ることができた